

巻頭言

「環境激変時の技術開発について」

代表取締役専務執行役員 建築本部長

居村 昇

誰がこういう状況になることを想像していたでしょうか。

近年ではこれまでも SARS や MERS といったウイルス問題やもっと遡るとペストのような大規模な感染症が流行したことはありますが、この進化した現代においてここまで世界的かつ長期的に拡大するとは、今全世界の研究者達が血眼になってコロナウイルスに対するワクチンや抗ウイルス薬の研究・開発に取り組んでいます。今回のコロナウイルスについては、早晚対処ができるようになるものと確信していますが、今回の事象によりこれまで徐々にまたは局所的に進められてきた新しい生活様式に世の中が大きく変化する可能性が高まっています。

一方国内の状況を見渡すと、ここまで毎年のように地震を含めた数多くの自然災害が発生し、我々の生活を脅かしています。「これまでに経験したことのないような」といった表現は何度も耳にしています。これらによる災害被害に対してその都度我々は不断の努力によって克服・復興を成し遂げてきました。

建設業界を取り巻く環境は急速に変化しており、少子高齢化による生産年齢人口の減少や働き方改革に伴う生産性向上の要請が喫緊の課題と言われて既に数年が経過しようとしています。更に今回の事象に伴う生活様式の変化が加わり、そういう意味では、当業界も更に大きく変化する可能性を秘めていますし、また変化していかなくてはならないのではと思っています。当業界に対しても社会から新たに求められるものが出てくる可能性が非常に高まっています。

こういう環境下では、技術開発の重要性が益々高まってくると同時に、見方によってはある意味チャンスが訪れているとも言えます。技術開発とは「人間が産業や生活において、それを一層有効な形で運営をできるための技術を獲得することを目的として、それを成し遂げるための組織的な努力をいう」とあります。

技術開発には、常に発注者（施主）であったり、作り手（作業員）であったり、その利用者であったり、建築物にかかわるすべての人に何らかのメリット・利便性等が付与されるものが求められていると思います。過去を振り返ると、あらゆる世界において技術開発や新しい商品提供によって多くの人がいろいろな局面でメリットを享受してきました。そういう意味では開発のニーズ・シーズの原点は、現場・お客様にあるものと思います。こういう変化の時代にいることを幸運と思って、果敢にチャレンジ・取り組んでいこうとする気持ちが重要です。

当社では、昨年策定した中期経営計画 2019 において長期ビジョンとして「社会基盤の強化に PC 技術を核とした省人・省力化施工で貢献する企業集団となる」を掲げ、PC 技術の更なる高度化を中心に据えて取り組んでいます。当社の強みでもあるこの PC 技術の更なる向上をベースに社会のニーズに応える技術開発に全社を挙げて取り組んでいく必要があると思います。

建設需要そのものは、その時々で増減があっても未来永劫無くなることはないでしょう。ただしその形・姿は変化するかもしれませんし、それに必要な技術も変わっていくかもしれません。常に世の中の動き・ニーズに幅広く関心をもって取り組んでいきたいものです。特に建設業界以外の動きにも関心をもって、新しいことに取り組んで行こうとする姿勢が重要ではないかと思えます。

2020年8月